１４期　生演奏を楽しむ科

講師の安永先生(右)と小泉先生(左)

日時：　2026 年 5 月 29 日（金）10 時～12 時
学習テーマ：楽器の魅力②打楽器
～マリンバの世界／ビートを楽しもう～
講師：　安永　早絵子 先生／小泉　渚　先生

1. 木琴の王様 マリンバの魅力
（演奏と、マリンバの歴史の解説）

（１） **演奏「メヌエット・ト長調」**両先生の連弾
（通常は J.S.バッハ作曲とされている）
[解説]マリンバの音質は、発音体が木材であることによる柔らかい音質。昔のアフリカで、木の板を並べて叩いたことが起源とされている。木の板が発する音を共鳴させる仕組みや、木の板の裏にひょうたんを付けて音を響かせるようにしたものは、今でも民族楽器として親しまれている。後にこれがアメリカに渡り、本格的な楽器として成長を遂げたという。

（２） **演奏「組曲 道化師」から「道化師のギャロップ」**（ドミトリー・カバレフスキー作曲）
安永先生のシロホン（木琴）と、小泉先生のマリンバによる合奏
[解説]この曲は、打楽器奏者であれば必ず演奏する有名な曲。シロホンもマリンバも、打鍵した瞬間のそのあとの音の時間的継続は短い。これはメリットでもありデメリットでもある。楽譜における音の時間的継続の要求に従って、音が伸びているように連打する。演奏者によっても、曲目ごとに弾き方が違ってくる。
（ここでは「G 線上のアリア（J.S.バッハ作曲）」などの例を用いて、連打していることが分からないぐらい、滑らかに柔らかく連打するなどの技法で、各種の連打を披露された。）
「打鍵のためのバチ」の作り方についても演奏者それぞれの技法や工夫がある。バチの硬い・柔らかいなどの調整は、芯の材質とそれを覆う布（毛糸を編んで作ったり）の材質の調整よって行う。

（3）**演奏「蓮祷（れんちゅう）」**（フランツ・シューベルト作曲）：小泉先生の演奏（独奏）
すでにこの世を去った人に祈りをささげるための曲。

（4）**演奏「剣の舞」**（アラム・ハチャトゥリアン作曲）：両先生の連弾による演奏
[解説]シロホンをオーケストラに初めて使ったのはサン＝サーンスで、「死の舞踏（動物の謝肉祭）」の骸骨の触れ合う音として使った。

（5）**演奏「名曲シネマメドレー」**　次の３曲を両先生の連弾にて演奏
（a）　映画**「第三の男」**の主題音楽（アントン・カラス作曲）、
（b）　映画**「太陽がいっぱい」**の主題音楽（ニーノ・ロータ作曲）、
（c）　**「踊り明かそう」**（ミュージカル「マイ・フェアー・レディ」の代表曲）（フレデリック・ロウ作曲）

2. マリンバ体験コーナー
受講者のなかで、マリンバの演奏体験希望者（４名）が選ばれた。マリンバを前にして、この４人が並んで両手にバチを持ち、片手ずつ交代で叩いて演奏支援。小泉先生の指揮のもとに、安永先生のシロホ

ン演奏での「ロンドン橋落ちた」のメロディをサポートするという形式での演奏体験。数回の練習のあと、見事な合奏が実現した。

3.「チャルダッシュ」分析コーナー

[解説]安永先生からのチャルダッシュの一般的な解説と、パッセージごとの演奏手法の分析

（1）「チャルダッシュ」は、イタリアの作曲家であるヴィットリオ・モンティの作曲であるが、チャルダッシュそのものはハンガリー語の「酒場」を意味する。

（2）この曲はヴァイオリン曲として作曲されたが他の楽器での演奏も多い。マリンバでの演奏においては、トレモロの演奏効果が、聴く人の感動を呼び起こす効果が鮮やかで、特に好まれる曲でもある。トレモロが複雑であり演奏者にとっては難曲で、両手の交差も起きることから、トレモロの開始を左右の手のいずれから開始するかについても、演奏者ごとに悩ましいことになる。

小泉先生のチャルダッシュの演奏（超絶技巧の演奏）に感嘆しながら、たっぷりと聴かせていただいた。演奏後は、素晴らしい演奏に対して、しばらくは鳴りやまぬ受講者からの万雷の拍手があった。

4. ビートを楽しむ

（1）**演奏「ガナイア」**（マティアス・シュミット作曲）：小泉先生のマリンバ演奏、安永先生のジャンベ（太鼓）演奏での合奏は「右の写真」。

[解説]アフリカ旅行の印象から得られた曲として、マリンバのために作曲された曲と言われる。

（2）**「みんなでテキーラ」**（「テキーラ」の作曲者はアメリカ人のチャック・リオ）

（受講者全員でリズムを楽しむという意味で「みんなでテキーラ」となっている。）

「ガナイア」を演奏中の
小泉先生（マリンバ）　安永先生（ジャンベ）

小泉先生の指揮のもと、安永先生のピアノ演奏に合わせて、受講者全員が「何らかの打楽器」で参加するとともに、節目ごとにメロディに合わせて…『テキーラ！』…を叫び、全員参加で盛り上がった。

準備された打楽器の例は「左の写真」のとおり。

「テキーラ」の演奏に使用した打楽器（例）

（3）**「エル・クンバンチェロ」**（作曲者は、プエルト・リコ出身のラファエル・エルナンデス）

最後の演奏曲目として、みんながよく知っている曲として、にぎやかに楽しませていただき、大拍手にて惜しまれながらこの回の講義は終了となった。

報告者のコメント

マリンバの演奏においては、楽器の運搬や解体・組立などにかなりの労力と時間を必要とするため、先生方のご苦労にはアタマが下がります。この会場は、マリンバ演奏に好条件の音響環境でもあり、私たち受講生にとっては「生演奏」を存分に楽しませていただきました。［広報担当 S.S.］